

30・40歳代男性の農業・農村生活（資料）

乗 本 秀 樹

On the Agriculture and the Farm Village Life of Men in Thirties and Forties 〈materials〉

Hideki NORIMOTO

1. はじめに

農村に暮らし農業に従事し続ける人々は、自身の感じ方や考え方を時間をかけて醸成してゆく。——この視座から先に農村女性における農業観の醸成過程について検討したが、同様のことは農業と農村・農家生活を担う男性についても気がかりなところである¹⁾。

思うに、これから農業に従事しようとする若年男性については、彼らの人となりや志向がさまざまな角度から議論される。だが、やや年長の世代の男性に関しては、まったくといってよいほどに言及がない。農業や農村・農家の調査活動などでわれわれが最も頻繁に対面し対話する当の相手であるのに、トータルかつ機微にわたる像が意外なほどに不明瞭なのである。おそらくこれは、そうした年代の男性が、農業や農村を考察する人々によって「農業経営主」というカテゴリーのもとにとらえられがちなことによるものであろう。

たしかに壮年の男性は、農業経営主である場合が多い。だが、性急にこの側面だけを切り取るとき、農業や農村に賭けて生を生きようとしている人々の諸相の多くを削ぎ落とすことになりはしないか。そして、現代人の生き方の一つの可能性であるにはちがいない農業・農村生活を、不当に軽視することに結びつきはしないか。——その意味でも、中年ないし壮年の男性の諸行為を素朴に観察するのは、大切な基礎作業のはずである。

以上のような想いのさなかに、筆者は「専門的に農業に従事する壮年男性の豊かさ観（感）」について調べる機会を持った²⁾。本稿では、そこで得られたことがらをいわば生のままに提示し、うかがわれる傾向を記述する（2.）。といっても、ここでの資料と指摘は、予め設けられた何らかの

仮説を論証しきるほどに豊富で決定的なものではない。むしろ、情報を逐次蓄えてゆくこうした作業が大切であることを訴えるための凡例であり冒頭の課題にアプローチするためのトピック、というほどのものである。そうした意味合いにおいて、今後の研究の着眼点について示唆を得ておきたい（3.）。

2. 30・40歳代男性の農業・農村生活

（1）調査の方法

壮年男性の豊かさ観をとらえる作業の一環として彼らの農村・農家生活の実態と感じ方・考え方を調べたのであるが、その方法のあらましは以下のようなものである。

〔調査の時期と担当者〕 調査は、1993年2・3月に、下のようなかたちで行なった。

筆 者

〈調査票送付・イメージ提示〉 ↓ ↑ 〈コメント付記・調査票返送〉

生活関係改良普及員

〈イメージ形成・聴き取り〉 ↓ ↑ 〈回答・記述〉

壮年男性（被調査者）

すなわち、26県の生活関係改良普及員に依頼して、各管轄農業改良普及所管内で“豊かな農村・農家生活をしている”と感じられる壮年男性に面接調査してもらおう。もちろん“豊かな農村・農家生活”というだけでは漠然としているし、普及員ごとにイメージがまちまちである。そこで、筆者の方からそのイメージを普及員に提示し、これを含みつつ壮年男性の選定と面接調査にあたってもらおう。

〔調査の内容〕 調査の内容は、壮年男性のプロフィール、家族・農業・生活の実態、農家・地域

表－１ 豊かな農村・農家生活であるための条件（調査対象選定の目安）

A. 所得の追求だけではない。生活の利便化をはかるだけでもない。地域や農家のうちにさまざまな循環や交流があり、全体として活力が高まる。
(例) ①自家消費の野菜はなるべく自分で作る。あるいは地域内で作る。 ②糞や畜糞などはむやみに捨てられないで、有効に使われる。 ③農業以外の手仕事（織物、工芸など）と農業とが、無理なく結びついている。 ④農地や林地が有益に使われる。 ⑤消費者と顔の見える結びつきが保たれている。 ⑥さまざまな文化活動が展開され、仲良く楽しめる。
B. 一人一人のじっくりとした生き方ができる。そんな生き方や暮らしが尊重される地域や家庭だ。
(例) ①勉強・遊びとともに農業（農的なこと）が生活リズムに入っている子供たち。 ②身につけた農業技術や趣味で生き生きと過ごす高齢者。 ③見よう見まねで農業を始め、けっこう楽しんでいる若嫁。 ④農業に賭けており、風格のある青年。 ⑤意外な趣味をもつ壮年。
C. 開放的であり、よそ者扱いや排除がない。
(例) ①都市や他地域から来る人、帰る人を自然に受け入れる。 ②“嫁いびり” “姑いじめ” などが無い。 ③グループ活動が活発で、誰でも参加できる。 ④それぞれの世代の知恵や努力が軽視されたりバカにされない。
D. 農業や生活の基盤が整えられている。
①衛生、医療、義務的教育、公共交通、防災、日常品購入などについての基盤が整っている。 ②人並みに生活を楽しんだり素養をつける基盤が整っている（文化、スポーツ、学習などのための施設や制度、など）。 ③地域を再発見したり、伝統を受け継いだり、新しく伝統を作る機会や動きがある。

生活での位置、農村・地域生活についての見方・感じ方などにわたる（表－２を参照）。これらの諸項目はさらに細目に分かれるが、被調査者の主観にかかわることがらについては調査担当者に必ず聴き取り記述してもらい、客観的な事実に関することがらについては調査担当者が既得の知識を記してもよい。

〔農村・農家生活イメージの提示〕 筆者が提示する「豊かな農村・農家生活であるための条件」（表－１）は、近年各方面で強調される農村・農家生活ヴィジョンを反映する。とはいえ、私見を調査に被せることは否めない。また、耕地規模や作目畜種などの客観的事実ではなく、調査担当者の主観（「豊かだと思う」）によって対象が選定される。こうした不自然さをおしてあえて「イメージ」を掲げるのは、ともすれば「古くて窮屈なところ」と見られがちな農村・農家に新たな兆しを見い出そうとしてのことである。また逆に、農村を“自然が豊富で外から自在に入れるところ”などと安易に決め込む傾向に対しては、生活と仕事が発揮する場の特質に目を向けるよう促そうとしてのことである。

〔調査方法の意義と限界〕 こうした方法には、多くの地域の人々について調べられる、仮設の「イメージ」を相対化してより望ましい内容を構想すべく対話（被調査者と調査担当者の間で、調査担当者と筆者の間で；ただし、本稿の範囲を越える）が誘発される、などの利点がある。その一方で、以下のような不都合もともなう。

ア. 「イメージ」または「条件」によって調査対象や聴き取り内容が限定され、壮年男性の多様な生き方や生活がバランスよくとらえられない。

イ. 農林行政や改良普及行政に近い人々が、調査対象として選ばれがちである。

ウ. 筆者がみずから面接しないこともあって、言葉になりきらず表情や雰囲気としてしか察知できない感慨などがとらえきれない。

（２）調査結果の一覧

以上の方法によって52(人)の事例が集められた。これらのうちから、記入状態が良好でないものと標本数が少ない50歳代男性を除き、25(人)の事例を得た³⁾。それらを被調査者の居住地域（都市近郊、純農村、山村）に配慮しながら一覧化したのが表－２である。

（３）傾向のあらまし

事例群は、標本数からみて数量的処理になじみがたい。そのかぎりでは印象論的な考察にとどまざるをえないが、以下に諸項目に即して特徴を記しておこう。

a. 年齢〔自家農業従事歴；結婚時期〕 多くは、結婚よりも自家農業従事が先である。夫婦で農業を決断して始めるのではなく、本人が農業に従事しある程度に見通しがついたところで結婚、そして共に従事する、ということであろうか。

b. 就業状況 日雇いと林業の２人を除いて、農業のみが仕事である。

- c. **就農以前の職業** 大多数が学卒後すぐに就農しており、農業と無関係な産業・職業への従事経験をもつのは3名である。なお、農業高校、農業関連大学、市場研修、海外農業研修などで、就農に前もって訓練を受けている者は多い。
- d. **経営権** 「まだ移譲されていない」「農業者年金制度上は移譲されているが実態はまだ」という2人を除いて、農業経営権は名実ともに親世代から移譲されている。
- e. **趣味・特技** スポーツ、読書・書道・文筆、合唱・バンド・司会・英会話、パソコン、農業経営（仕事そのものでもある）・電気工事・機械改良修繕、人に会うことなどと多彩である。もちろん、旅行、登山、魚釣り、写真、マージャン、手工芸などもある。複数の趣味や特技を持つ者が多いこと、それらが社会や人との結びつきを指向することも特徴である。
- f. **家族構成** 大多数が、三世代の家族構成である。
- g. **主要農業従事者〔他産業従事者〕** 妻が他産業に就業したり、育児中のため自家農業に従事していない例も若干あるが、多くは本人、妻、父または母という労働力構成である。
- h. **農業の組織・規模** 大多数が、複数の作目畜種を手がけている。
- i. **雇用労働** 常雇が2例、臨時雇が16例であり、雇用労働力を入れている場合が多い。
- j. **年間農業所得** 250万円から2500万円まで幅がある。なお、「250万円」（22番）では生計費を賄いきれないかに思われるが、「経済的な基盤もきちんとしている」（調査担当普及員）とのことである。
- k. **林業等の状態** 「なし」が多く、山村でも4事例のうち3事例がそうである。
- l. **農・林地利用の特徴** 積極的に個人的な利用もみられる（1、6、16、18、21、22番）。
- m. **家事分担** 炊事・洗濯・掃除については妻が主で母が補完というかたちが一般的で、本人が積極的に参加する例はない。せいぜい「買い物につきあう」「子供を世話する」「庭など外回りを手入れする」というところである。意識的に分担している例とて、この傾向を超えるものではあるまい（8、16番）。
- n. **食料調達** 米、野菜、果物、漬物、肉乳卵類、味噌・醤油等の調味料、山菜などが、自給ないし自家加工される。一切自給されないのは1例のみである。とくに純農村ではほとんどすべての農家で野菜や漬物が自給され、味噌等の調味料も約半数で自家製造されている。都市近郊でも半数の農家で漬物が作られ、味噌が醸造される例もある。これらの作業は、父や母によって担われる。
- o. **団欒・娯楽** 朝夕の食事を、家族一緒に時間をかけてとる。都市近郊ではテレビを観たり年に幾度か旅行することが、山村では農作業を共にすることも団欒である。
- p. **親世代との関係** 役割分担や居住空間利用の実態、両世代の努力目標や雰囲気、問題点の有無などにわたり回答のトーンは斉一でないが、「居住空間を分離している」「話し合いに心がけている」などが目立つ。
- q. **妻と農業** 多くは結婚と同時に農業に就き、簿記記帳あるいは機械作業補助、摘果、選別等の手作業に従事する。半数近くで農業が気に入り前向きだと明記されており、その度合いは、結婚後直ちに就農した場合と育児終了後に就農した場合とで大差ないようである。
- r. **農業経営での役割** 作付飼養体系や作業計画の立案、機械作業、売買交渉、借地契約、雇用管理や財務管理を担当する。なお、11番では経営権が親世代にあるが、これは伝統的な販売・商慣習が残存する茶の特質も作用してのことであろう。
- s. **農家生活での役割** 全体的に多いのは「買い物につきあう」ことである。年齢に応じて役割は異なり、たとえば35歳頃からは集落等の「会合への出席」が多くなる。なお、少数ではあるが、「ふとんのあげおろし」「おせち作り」「自給加工品作り」「当番の時にこなう」などの部分的で限定的な家事参加もある。
- t. **地域での役割** 実に多くの役割を引き受けている。農業にとどまらず地域の自治・教育・防災・将来構想にも関連する役割であり、役職も多い（調査方法に因むところも大きいであろう）。
- u. **家族や地域の人々の期待・評価** 主に地域の人々による評価が記されており、役職という“かたち”だけでなく、人格や行動力を含む“実力”において一目置かれている。
- v. **都市生活に比べてわが家のいいところ** 「自然（緑・空気など）が良く静か」「家族そ

表-2 30・40 歳 代 男 性

番号(県市郡;立地)	1(静岡県磐田市;都市近郊)	2(三重県津市;都市近郊)	3(鳥取県倉吉市;都市近郊)	4(宮城県黒川郡;都市近郊)
プロフィール	a. 年齢(自家農業従事歴;結婚時期) b. 就業状況 c. 就農以前の職業 d. 経営権 e. 趣味・特技	a. 38歳(17年;11年前) b. 農業のみ c. 農業高校卒業後、渡米研修 d. 年金制度上・実態上移譲済み e. 農業経営自体が趣味・特技のようなもの。山歩き・釣り・趣味、英会話が特技。	a. 35歳(8年;7年前) b. 農業のみ c. 農協職員 d. 年金制度上・実態上移譲済み e. 司会業	a. 43歳(23年;20年前) b. 農業のみ c. なし d. 年金制度上・実態上移譲済み e. 登山、若い人たちの意見交換
家族・農業・生活の実態	f. 家族構成 g. 主要農業従事者(他農業従事者) h. 農業の組織・規模 i. 雇用労働 j. 年間農業所得 k. 林業等の状態 l. 農・林地利用の特徴	f. 妻、長男、次男、長女、母 g. 本人、妻、母(-) h. キウイ・フルーツ2ha、柑橘類60a i. 常雇1人、臨時雇のべ500人日 j. 911万円 k. なし l. 分散農地を継承して観光農園に。キウイと柑橘類が周年営業。隣接林地は「冒険の森」に。自然教室や人材育成講座も農園と「森」で。	f. 妻、長女、次女、父、母 g. 本人、父、母(-) h. 豚55頭、和牛10頭、肉牛42頭、水稲230a、大豆114a、大豆114a i. ー j. 400万円 k. なし l. ー	f. 妻、長男、次男、三男、長女、母 g. 本人、妻(-) h. 水稲2ha、花卉(ハウス)30a、ブルーベリー15a i. ー j. 600万円 k. なし l. ー
農家・地域生活での位置	m. 家事分担 n. 食料調達 o. 閉鎖・娯楽 p. 親世代との関係 q. 妻と農業	m. ー n. 自給野菜なし(すべて販売) o. 食事は一緒にする。ときどき家族旅行。 p. 食事は一緒にするが、別機で生活を互いに干渉しない。 q. 農業簿記記帳と家計管理。	m. 家事は妻、家庭菜園作りは母。 n. 米、野菜、味噌、漬物類を自給。 o. 食事の時、夫婦単位での1日旅行が頻る。 p. 妻が作る食事の味が薄いという。家事を手伝ってもらえない。 q. 結婚と同時に農業を一緒にやっている。農業技術研修会には必ず夫婦で出席。簿記・経営分析は妻が引き受け、プロ意識が高い。	m. 炊事・洗濯は妻が中心。母は農業期(9・10・11月)の炊事、買い物は妻。 n. 野菜を自給(父、母)。フィノク味噌、草餅、きのこ、木の芽汁などの料理も。 o. 朝夕食は共にする。夫婦と子供でキャンプ。家族旅行は年1、2回。 p. 父母は農業経営に参加せず、自給畑のみ。 q. 結婚と同時に就農、花の手入れ等、夫と同等の農作業を。農業経営も家計の記帳を担当。農業以外の仕事と考えると、「気に入っている」などと考えたこともない。
農家・地域生活での位置	r. 農業経営での役割 s. 農業生活での役割 t. 地域での役割 u. 家族や地域の人々の期待・評価	r. 機械仕事、作業計画、研修生受け入れ、販売、営業(作業)記録を夫が行なう。 s. 集落内での会合に出席。近所のつぎあいの場に参加。 t. 体育指導員、消防隊員。 u. 体育振興(ソフトボール他)で活躍。農業経営面の柱。市の農業の担い手として大きな期待を掛けられている。	r. 機械仕事、売買交渉、農作業全般、作業体系管理。 s. 風呂に入れるなどの子供の世話。 t. 養豚部・肥育部・肥育若者会リーダー、運動運営委員長。 u. 行動力・実践力があり、評価が高い。	r. 切花用苗作り、機械作業、運搬作業、作付計画、水路等掃除、積み取り園(消費者交流)管理、ビニール張り替え、道路拡大大歩(学校給食等)、ブルーベリー加工、郵便発送等。 s. ときどき買い物。学校行事への主体。 t. 学校給食審議会委員、小学校PTA会長、ブルーベリー生産組合長、農青会会長、県加工者連絡協議会支部副会長、農政審議会、等。 u. 数少ない農業者の代表として発言力を持つ。地場産品育成の先駆者。実習生の受け入れ・交流・会合出席・新規作目の展示場設置など後継者育成に熱心。都市生活者との交流に積極的。
農家・地域生活についての所感等	v. 都市生活に比べてわが家のいい(自慢できる・楽しい)ところ w. 都市生活に比べてわが村のいい(自慢できる・楽しい)ところ x. 「いいところ」と思えるようになった時期 y. わが村に欠けているところ z. 行なっている文化的な活動	v. 回りは自然がいっぱいいてのびのびと暮らせる。 w. 住民間、家族間のコミュニケーションが密接に図れている。 x. 中・高校生になって、1人で自転車等であちこち旅をするようになった頃から、地域や家を客観的に見るようになり良さがわかってきた。 y. 無秩序な乱開発。集団の中で主体性が持てない。「協調」を前に出さずする。 z. 自然教室・農業教室、人材育成講座(大学生・社会人)、英会話教室、ザ・朝市、ウォークラリー、掛川マラソン、オレゴン生産習農場派遣事業。	v. 人に使われるのではなく、自分の思い通りに経営できる。精神的にゆとりがある。 w. 緑が豊かで、のんびりしている。生活の上利便性もよく快適である。 x. 大学生の頃から。 y. 村のうわさ話。人に干渉しすぎる(一部にそういう人がいる。 z. 地区運動会、有機米生産グループ、障壁(中小企業青年部)。	v. 人に言われることなく、自分で学習・研修して考え実現しものになる。家族全員が自分の働いている姿、地域の人も接している姿を見ており、説明しなくても協力・理解される。時間が自由で稼働もできる。他の人と話し合う機会が作れる。両親にも子供にも仕事がある。 w. 集落の人たちの様子がだいたいわかる。車で5、6分のところに役場・農協・普賢所・学校・病院・郵便局がある。 x. 不明。住んでいるところは便利だと思うようになったのは、10年ぐらい前から。 y. 産住化し始めて挨拶・助け合い・手伝いの良さが失われ、合理的(何でもかんでも金に置き換えて)になり集落の交流が偏る。 z. ブルーベリー摘取園での消費者との交流、バスケット愛好会(青年層の町民)。
調査担当者の所感	①豊かだと思われるところ ②あまり豊かでないところ、改善が望まれるところ 集落の様子 ①世帯数(農家率) ②後継者問題(協同問題) ③高齢者の状態 ④非継承者の暮らし易さ	①めまぐるしく開発が進むなかで、作物を生産するだけでなく、農業のもつ社会的機能を農業者自身が実践しPRしている。家族みんなが生きていくと楽しく暮らしている。夫婦が対等なパートナーとして協力し合っており、二人とも前向きで共通の夢をもっている。 ①487戸(54%) ②問題ない(問題ない) ③仕事・趣味・生きがいを持ち生きている。 ④入って暮らしやすい実際にそういう人がいる。	①農業を生産の職業として選択し、経営センスを身につけている。その一方で、農業以外の職業の人との付き合いを大事にしており、幅広い交流がある。その意味で、生活をエンジョイしていると感じられる。 ②市街地化のなかで農地の確保が困難になっている。将来を考えると悩まれているところ。 ①227戸(28%) ②かなり深刻(問題ない) ③趣味や生きがいを持ち生きている。 ④入って暮らしやすい実際にそういう人がいる。	①考え方がしっかりしており、農業に誇りを持って頑張っている。 ②ー ①112戸(46%) ②問題ない(問題ない) ③趣味や生きがいを持ち生きている。 ④入って暮らしやすい実際にそういう人がいる。 ①46戸(15%) ②少し深刻(問題ない) ③ー ④例はないが、入って暮らせると思う。
〈参考〉調査担当者の年齢	30歳代前半	40歳代前半	40歳代前半	40歳代後半

30・40歳代男性の農業・農村生活

の 農 村・農 家 生 活

5 (山形県山形市; 都市近郊)	6 (岐阜県恵那市; 都市近郊)	7 (徳島県板野郡; 都市近郊)	8 (青森県三戸郡; 純農村)	9 (青森県三戸郡; 純農村)
a. 44歳 (26年; 22年前) b. 農業のみ c. なし (農業のみ) d. 年金制度上・実態上移譲済み e. 人との付き合い、合唱、登山 f. 妻、長女、次女、三女、父、母 g. 本人、妻、父、母 (長女) h. 肉牛10頭、水稲1ha、野菜3a i. 臨時雇のべ12人日 j. 638万円 k. なし l. アパート (6世帯)、駐車場 (7a)	a. 40歳 (18年; 12年前) b. 農業のみ c. 市場で研修 d. 年金制度上・実態上移譲済み e. スポーツ、読書、パソコン、パソコン通信 f. 妻、長女、次女、長男、三女、父、母、祖母 g. 本人、妻、父、母 (-) h. 水稲1.2ha、花丹4500㎡、菜4ha i. 臨時雇のべ800人日 j. 700万円 k. あり l. 1. 有志で共同園を持ち、緑黄野菜・自然農などを栽培。	a. 42歳 (19年; 19年前) b. 農業のみ c. 製薬会社員 d. 年金制度上・実態上移譲済み e. 写真、旅行 f. 妻、長男、長女、妻の母 g. 本人、妻、妻の母 (-) h. 洋ラン (ハウス) 40a、レタス30a i. 臨時雇のべ180人日 j. 1,000万円 k. なし l. 一	a. 39歳 (22年; 19年前) b. 農業と日雇い c. なし (農業高校) d. まだ移譲されていない e. 音楽 (バンド)、農業機械の改良 f. 妻、父、母、祖母 g. 本人、妻、父、母 (-) h. 水稲60a、小麦35a、ハウス・キュウリ20a、白菜1ha、長手90a、牛90a i. 臨時雇のべ10人日 j. 600万円 k. あり l. 一	a. 36歳 (16年; 8年前) b. 農業のみ c. なし (農業大学校) d. 年金制度上・実態上移譲済み e. 柔道3段 f. 妻、長男、次女、長女、父、母、祖父、祖母 g. 本人、妻、母 (-) h. リンゴ5ha、水稲50a i. 臨時雇のべ25人日 j. 700万円 k. なし l. 一
m. 炊事は母。本人夫婦が旅行をする時などは、子供の世話、家事もやってもらう。 n. 自給生産物を利用。漬物は交際にも使う。 o. 夕食時に話し合う。 p. 親夫婦の小遣いは年金 (恩給)。大きな支出のとき、一部負担をしてくれる。 q. サラリーマン家庭で育ち動いていたが、結婚してから農業に従事。肉牛飼育管理全般、水稲精付・収穫防除を行なう。最近、喜びを感じている。	m. 妻、母、祖母とのあいだで役割分担。男性の家事参加はない。 n. 自給・自家加工あり (母)。 o. 子供を中心に家族旅行 (海、スキー)、家族の誕生日会、伝統行事をやる。 p. 家族の一員としての86歳の祖母の仕事も尻長に見守る。 q. 結婚と同時に就農。雇用労働のマネジメントを担当。農業も農家生活も気に入っている。	m. 本人は庭の木造り、妻は洗濯・炊事、妻の母は掃除・洗濯。 n. 米・漬物を自給。 o. テレビを見るときぐらい。(子供が小さいときは、グループ旅行をよくした)。 p. ずっと三世代同居で、それが普通だと思っているので、とくにない。 q. 子供が学校へ行くようになってから就農。農業簿記の記帳、機械仕事以外の全般を行なう。	m. 炊事・洗濯は妻が主で母が補充、買物は妻が主で本人が分担。老人介護は全員で当番分担。 n. 米、野菜、漬物等を自給。 o. 年2回家族旅行。食事はできるだけ揃って、食後は切替時間。 p. 世代毎の軌立の工夫。作業を部門分けし、自由に使えるお金を家族で話し合って決める。 q. 結婚後すぐに農業に従事。全般的作業に当たる。農業に生きがいをもっている。	m. 炊事・洗濯は母と妻。 n. 米、リンゴ、野菜、鶏卵、鶏肉、漬物等を自給。 o. 食事の時に3時間ぐらい。 p. 互いに話し合うようにしている。 q. 結婚した当時から農業に従事。リンゴの摘果や収穫に当たる。
r. 機械仕事、牛売買交渉、水稲栽培全般、農業簿記、肉牛飼育管理を担当。 s. 買い物につきあう、PTA行事への参加、子供たちの話し相手、家庭サービス (ボリングなど)。 t. 肉牛組合長、農協総代、堆肥センター副組合長、PTA役員、ヘルパー利用組合長。 u. 世話役が遠征、地域のリーダー。家族を大切にしている。	r. 洋ラン部門の栽培管理、財務管理。 s. 買い物につきあう、集落の会合に出席。 t. 体協役員、地域協会のオペレーター。農業情報利用研究会結成に向けて努力中。 u. 若い農業者の研修受け入れ (栗・洋ラン)。	r. 機械仕事、売買交渉、外交。 s. 買い物につきあう。会合に出席。 t. レタス班長、地区青壮年部長。 u. 地域の活性化、先進的モデル農家としての期待。	r. 機械に関する仕事が主。 s. 買い物につきあう。 t. 地区消防団団長、元後継者の会長。 u. 集落の中堅として人望がある。	r. 機械仕事、リンゴの売買交渉。 s. 買い物につきあう。 t. 農協青年部、八戸地区青年農業士会で活動している。 u. 青年部のリーダーであり、村の発展のリーダーシップをとってくれるものと期待される。
v. 明るく賑やか。新鮮な物が食べられる。家族一緒に仕事ができ、子供は親の仕事を見ながら育つ。家族のうち6人が海外旅行、ホームステイも30人受けた。 w. 昔からのつながりの隣組があり、困った場合に互いに助け合う。 x. 20年前に「いいところ」思ったので、この地で農業をしてきた。 y. 居住化し、新しい人たちが近所・組織に参加し役員になるが、前から居る人は消極的だ。役に当たりそうだと脱けてしまう。うわさ話がすぐ広がる。 z. 地区の運動会、文化祭 (合唱、カラオケ、趣味)、球技大会 (ゲートボール、バレーボール)、祭り、子供みこし。合唱団役員。	v. 農業経営の目標に向かって、家族が役割分担して従事でき、共通の話題がある。都市生活のように分業されず、農業には総合的な仕事がある。 w. 自然環境が良いところ。食糧が供給できる。旬の味が残っている。 x. 自分が農業について、10年間の夢である規模拡大を果たしたとき。 y. 一 z. 県指導農士、農業情報利用研究会、味伝承講座 (消費者向け) 講師。	v. 交通渋滞がなく、空気がきれい。隣り付き合いがある。楽しさをモットーにしている。太陽の下で皆で仕事ができること。 w. まとまりがあり、助け合いができること。 x. 一つ頃と言われてもわからない。 y. 作物の種類が増え、助け合いがしにくくなってきているのが残念。 z. 「ふるさとキャラバン」を町で上映。写真クラブ、旅行クラブ (13ホームの会)、ソフトボール。	v. 静かで緑が残っていて人情が細やかである。 w. 隣り近所が助け合いの気持ちを持っている。 x. 幼少より。 y. 男性に比べ女性の立場や発言権が受け入れられない雰囲気がある。 z. 旅行の会 (8組の夫婦で年4回ぐらい)。	v. 食生活が豊かである。新鮮で安全な農産物が手に入る。 w. 緑が多く自然が豊かである。助け合いなどの人間関係がよい。 x. 子供の時から。 y. 若い人たちが働く職場がない。農業をする人が少なくなってきた。 z. 消費者との交流 (自分の農場で、スポーツ活動 (村の子供たちに柔道を教える))。
①生きものを愛着をもって育てている。夫婦単位で行動する (合唱団も夫婦で)。子供たちの自主的な生き方を尊重している。いろいろなことに係わりをもち、付き合いを大切にしている。 ②牛の飼育管理のために、朝・夕の食事を本人だけ一緒にとれている。	①家族の共通目標があり、いつでも受け入れる大らかさがある。伝統行事や行事食・産物を使った季節感を大事にしている。 ②農業生産の場と生活の場が分離されていない。さしあたって、雇用者・生産関連来客のための休憩室などの整備が求められる。	①自分で農業の目標を決め、着実に歩んでいる。主義・主張がある。家族の和と会話のはずむ作業場。忙しいときには、家事や農作業を助ける子供たち。地域の活性化に努力している。 ②定期的休日を導入してはどうか。	①家族一人一人が生き生きとして、新しい情報を取り入れながら頑張っている。できるだけ生産物を活用し、食卓に上らせるよう努力している。 ②働くことが美徳のような風潮が地域に残っている。冠婚葬祭にお金がかかる。	①食物の多くを自給している。消費者との交流を行い、リンゴ作りに対する考え方を知ってもらうとともに、消費者の声を生かしている。田舎の良さを積極的にPRしている。 ②とくになし。
①166戸 (37%) ②さかめて深刻 (問題ない) ③趣味や生きがいを持ち生き生きしている。 ④入って暮らしやすそう実際にそういう人がある。	①90戸 (56%) ②かなり深刻 (少し深刻) ③趣味や生きがいを持ち生き生きしている。 ④一	①29戸 (86%) ②かなり深刻 (少し深刻) ③仕事・趣味・生きがいを持ち生き生きしている。 ④入って暮らしやすそう実際にそういう人がある。	①121戸 (84%) ②少し深刻 (かなり深刻) ③趣味や生きがいを持ち生き生きしている。 ④入って暮らしやすそう実際にそういう人がある。	①8戸 (100%) ②かなり深刻 (少し深刻) ③仕事に生きがいを持ち生き生きしている。 ④例はないが、入って暮らしやすそう実際にそういう人がある。
50歳代前半	40歳代後半	30歳代前半	50歳代後半	30歳代前半

表-2 30・40 歳 代 男 性

番号（県市郡；立地）	10（山形県東田川郡；純農村）	11（静岡県掛川市；純農村）	12（三重県安芸郡；純農村）	13（兵庫県神戸市；純農村）	
プロフィール	a. 年齢（自家農業従事歴；結婚時期） b. 就業状況 c. 就業以前の職業 d. 経営権 e. 趣味・特技	a. 32歳（9年；8年前） b. 農業のみ c. 大学（農業専攻）中途、製茶会社勤務 d. 年金制度上移譲されているが実態は変わらない e. 野球、スキー、テニス、スポーツ観戦	a. 37歳（18年；6年前） b. 農業のみ c. なし d. 年金制度上・実態上移譲済み e. 機械・器具の修理、家族旅行	a. 33歳（11年；4年前） b. 農業のみ c. なし d. 年金制度上・実態上移譲済み e. パソコン、バレーボール	
家族・農業・生活の実態	f. 家族構成 g. 主要農業従事者（他農業従事者） h. 農業の組織・規模 i. 雇用労働 j. 年間農業所得 k. 林業等の状態 l. 農・林地利用の特徴	f. 妻、長女、次女、父、母、祖母 g. 本人、妻、父（-） h. 自家茶園150a、買値の製茶（120K 2ライン） i. — j. 800万円 k. なし l. —	f. 妻、長男、長女、父、母 g. 本人、妻、父（-） h. 米18ha、麦（全面請負作業） i. 臨時雇のべ10人日 j. 600万円 k. あり l. —	f. 妻、長女、次女、父、母 g. 本人、父、母（妻） h. 米80a、新鉄砲ユリ32a、チューリップ30a i. 臨時雇のべ115人日 j. 1,200万円 k. なし l. 山崎自動車道が建設され、農地、林地が買収されている。ゴルフ場も隣接集落にある。	
農家・地域生活での位置	m. 家事分担 n. 食料調達 o. 団契・娯楽 p. 親世代との関係 q. 妻と農業	m. 家事は祖母、母、妻が担当。台所仕事は母と妻、子守は妻、あとは母と妻が分担し祖母が補足。 n. 野菜の自給、味噌、こんにゃく、みかんジュース等の加工（いずれも母）。 o. 家族そろっての3回の食事が団契の生活。娯楽は夫婦単位で。 p. 主婦も仕事も一緒に休むので休日は別行動。思ったことは口に出さず話し合うようになっている。 q. 元証券会社OL。子育てが主で、実質的にはまだ農業を行っていない。近い将来コンピュータ利用の簿記記録を始めていると考えている。	m. なし n. 野菜・卵は自給、漬物程度は自家加工。 o. 家族全員で車に乗って出掛ける。 p. 妻と新築。食事は一緒にするが、部屋を分けてそれぞれ生活を尊重。 q. 結婚と同時に就農。夫が行なう水灌作の補助作業を受け持つ。	m. 炊事（妻の育児休業中）が、洗濯と掃除は世代ごとに。 n. 米・野菜を自給、漬物も自家加工。 o. 年に1、2回、ドライブなどの日帰り家族旅行。それぞれが所属する団体（婦人会、生改グループ、農会など）の旅行にも参加。 p. 親夫婦と別れて生活。食事は風呂は一緒。とくに不便は感じない。 q. 農外活動。	
農家・地域生活についての位置	r. 農業経営での役割 s. 農家生活での役割 t. 地域での役割 u. 家族や地域の人々の期待・評価	r. 全体に責任持ちつつも、本人世代は水稲。父世代は栗・うど・山林と部門別担当している。 s. 買ひ物、布団あげおろし、外の掃除。 t. 生産組合長 u. 人望の厚い、村のまとめ役。先を渡り農業経営者。	r. 父親に代わり経営の主体担として、買値農家・茶商との交渉や作業の計画。祖母が始めた製茶業なので祖父の出番も多い。 s. 生活面では3人の女性が主体だが、子育てや会合出席など、できる範囲で協力している。 t. 市や地区の農業者会、青年団、消防団、JA 青年部等に所属し、精力的に活動している。 u. 家庭でも「担い手」としての期待は高い。よき父親。地域では、数少ない農業後継者の1人で期待も大きい。	r. パソコン利用の経営管理、機械導入による省力化、オンラインからの輸入球根も含む商談、生産部会活動。 s. 議・自治会などの村の付き合いは父。本人は生産部会と農業経営に関することのみ。 t. ユリ・チューリップ生産部会役員、町スポーツ振興会、消防団。 u. 地域の花卉栽培で球根管理・販売管理での情報処理ニーズが高まっており、その推進役として期待され信頼されている。	
農家・地域生活についての所感等	v. 都市生活に比べてわが家のいい（自慢できる・楽しい）ところ w. 都市生活に比べてわが村のいい（自慢できる・楽しい）ところ x. 「いいところ」と思えるようになった時期 y. わが村に欠けているところ z. 行ないていない文化的な活動	v. 家族が楽しく生きられるような目標を農業の中で構築できる。農業を通して緑のにおいを感じ、小鳥の鳴き声が耳にできる。 w. 先祖による集落有財産（山林）の管理によって、現在の村はいろいろと潤っている。村なればこそ感謝している。 x. わが子を得てから。 y. — z. 親子スキー大会、むらづくり、祭典。	v. 自然に恵まれた広い敷地でゆったり暮らせる。農業は自分で計画調整ができるし、子育ての環境としても恵まれている。 w. 協調性がある。自然環境に恵まれている。 x. 結婚（就農）した頃から。 y. 集落の行事が多く、役員だけが対応することも多い。 z. 郷土新聞野球部。	v. 家・屋敷が広々としている。子供をのびのびと育てられる。妻が農外勤務なので、子供を助けてもらっている。 w. 地域への連帯感がある。 x. 20歳代の後半。 y. — z. 部会の研修（国内各地、オランダ）、町民運動会、地区対抗球技大会（バレー、ソフト、ドッジ）。	
調査担当者の所感	①豊かだと思われるところ ②あまり豊かでないところ、改善が望まれるところ 集落の様子 ③世帯数（農家率） ④後継者問題（嫁問題） ⑤高齢者の状態 ⑥非縁者の暮らし易さ	①農業で生きるという基本姿勢が家族員に共通認識されている。家族同志のいざわりがあらわに見える。子供たちが家族周囲で農業を関連に見ている。60歳の若い結が家庭運営をしっかりと行っている。 ②村のリーダーが流動的なため、優れた人材を結果集落全体の動きへと誘導するのが困難。 ③52戸（94%） ④少し深刻（かなり深刻） ⑤それなりに何とかやっている。 ⑥例はないが、入って暮らせると思う。	①三世代が仲良く生き生きと茶業経営に取り組んでいる。それぞれが趣味や生きがいを持ち、個性を尊重した家庭運営をしている。積極的に休日をとり努力もしている。 ②とくになし。 ③79戸（40%） ④少し深刻（少し深刻） ⑤仕事・趣味・生きがいを持ち生き生きしている。 ⑥入って暮らしてやがて実際にそういう人がいる。	①農業が好きで楽しみながら働いている。家族の中心になって働く一方で、車で接して出掛けるなど生活をエンジョイしている。集落では、呼び掛けて21世紀会を組織し、河川敷を借り受けて農業の人が集まる手作りの公園を計画している。 ②高齢者が単独で移動するには、公共交通機関（バス）が不十分なこと。 ③120戸（51%） ④かなり深刻（問題ない） ⑤趣味や生きがいを持ち生き生きしている。 ⑥例はないが、入って暮らせると思う。	①所得は高く安定していて、機械の導入や新設備の導入など事業家として手腕を発揮している。親世代にも実質の給料を払っており、農業に従事しているみんながやりがいを感じている。 ②年中忙しく、まとまった休暇はとれず。出勤時間は労働時間が長くなるようだ。しかし、花作りが生きがい、不満はない。 ③82戸（74%） ④少し深刻（問題ない） ⑤仕事に生きがいを持ち生き生きしている。 ⑥入って暮らしてやがて実際にそういう人がいる。
〈参考〉調査担当者の年齢	50歳代後半	30歳代前半	40歳代前半	30歳代後半	

30・40歳代男性の農業・農村生活

の 農 村・農 家 生 活 (つづき)

14 (青森県三戸郡; 純農村)	15 (千葉県山武郡; 純農村)	16 (群馬県利根郡; 純農村)	17 (兵庫県神戸市; 純農村)	18 (徳島県板野郡; 純農村)
<p>a. 46歳 (25年; 25年前)</p> <p>b. 農業のみ</p> <p>c. 役場勤務</p> <p>d. 年金制度上・実態上移譲済み</p> <p>e. 書道、細字画、テレカ集め、カメラ</p> <p>f. 妻、長男、長女、次女、父、母</p> <p>g. 本人、妻、父 (長女)</p> <p>h. リンゴ2ha、長芋50a、つくね芋45a、水田17a</p> <p>i. 臨時雇のべ80人日</p> <p>j. 300万円</p> <p>k. あり</p> <p>l. —</p> <p>m. 炊事・洗濯は妻、夫・妻は買い物、屋敷周りの掃除・草取りは母。</p> <p>n. 野菜・鶏 (ウコッケイ) を自給、漬物・リンゴジュース・干柿・寒豆腐を自家加工。</p> <p>o. 家族旅行は1年1回くらい。団宴は食後が多い。</p> <p>p. 家が大きく古いので個室に改善した。</p> <p>q. 結婚後すぐに就職。経営全般に係わるが、不安定なので気に入っていない。</p> <p>r. 農業経営の全般にわたってやっている。</p> <p>s. 買物につきあう。会合に出席する。</p> <p>t. 農協の部長・施設運営委員等を教役、集落の相談役・会計、農業高校PTA評議員、県病畜虫歯委員、県青年農業育成推進委員、等。</p> <p>u. 人格が温厚で、村や集落のリーダーとして人望が厚く期待されている。</p> <p>v. 緑が多くて静か、春から秋にかけて庭一面に花が咲いている。</p> <p>w. 自然がいっぱいである。</p> <p>x. 幼いときから。</p> <p>y. 選挙のしごりがとれず、集落行事に悪影響。経済的に豊かであっても、心にゆとりや思いやりが少ない。</p> <p>z. 神楽舞保存会、書道 (地域の人と)、細字画 (1人で)。</p>	<p>a. 46歳 (27年; 22年前)</p> <p>b. 農業のみ</p> <p>c. なし (中堅青年養成所)</p> <p>d. 年金制度上・実態上移譲済み</p> <p>e. マージャン、読書</p> <p>f. 妻、長男、三女、母</p> <p>g. 本人、妻 (一)</p> <p>h. 水稲1.4ha、楠木20a、豚900頭</p> <p>i. 常雇2人</p> <p>j. 1,000万円</p> <p>k. なし</p> <p>l. —</p> <p>m. 妻は家事全般、日曜のみ三女が掃除・洗濯、母が草取り・屋敷周りを手入れ・自家用野菜作り。</p> <p>n. 野菜、豚肉、味噌を自給。</p> <p>o. 食事も食後を共にする (テレビ)。</p> <p>p. 父を早く亡くしたので結婚後は母を引退させた。家事や屋敷周りの整備に力を入れてくれている。</p> <p>q. 結婚当初より養豚全般・会計を担当。農休日や給料についても話し合いの上実施。</p> <p>r. 機械仕事、売買交渉、外交面全般、雇用管理・福利厚生、豚出荷作業、飼育関係全般 (祖父・父が早く亡くなり就職時から経営主)。</p> <p>s. 親戚付き合い。</p> <p>t. トラクタ利用組合長、畜産グループ会長、町農業振興会養豚部副会長。</p> <p>u. 外交面で活躍。町や地域で実力をもたぬ力が、年上の人から釘を刺されることもある。妻はもっと豚に力を入れてほしい、とのこと。</p> <p>v. 庭が広い、空気がうまい、家族各自の責任ある役割分担がはっきりしている。</p> <p>w. コミュニケーションがはかれる。助け合いできる。</p> <p>x. 就職時より。</p> <p>y. 口舌をうわさ話による家つづき。文化的なことや新しい情報に欠ける。</p> <p>z. マージャン (仕事関係者以外と)、地域での野菜、小学校等へのうどん・すいとんのサービス (転作農家による)。</p>	<p>a. 44歳 (26年; 20年前)</p> <p>b. 農業のみ</p> <p>c. なし</p> <p>d. 年金制度上・実態上移譲済み</p> <p>e. ウェイトリフティング、ゴルフ、スキー、マージャン</p> <p>f. 妻、長男、長女、次女、父、母</p> <p>g. 本人、妻、父 (長男)</p> <p>h. コンニャク5ha、アスパラガス60a、フキ30a、ホウレンソク50a</p> <p>i. 臨時雇のべ100人日</p> <p>j. 2,500万円</p> <p>k. なし</p> <p>l. 妻が、女性仲間4人で園場を借り白菜の共同栽培をしている。</p> <p>m. 家事分担制。父は仏管理・ゴミ処理、長女は弁当作り・片付け、本人と長男・次男は室内清掃、母は家事主担当で洗濯・食料・食準備、妻は朝食作りと食事片付け。</p> <p>n. 冬のトマト・レタス・キュウリ以外の自家野菜は父母が作る。味噌、漬物類も自家加工。</p> <p>o. 夕食後 (1時間)、朝食後 (子供は15分、大人はコンニャク作業期以外30分) に団宴。</p> <p>p. 各世代でそれぞれの時間を作るよう気を配っている。個々の生活と時間を大切にしている。</p> <p>q. 結婚後すぐに就職。作業はすべて夫と一緒。農業がうんと気に入らなれ仕事している。</p> <p>r. 肥料設計、売買交渉、機械仕事などほとんどの経営と管理。(簿記記載のみ委)</p> <p>s. 家事を分担。</p> <p>t. 市ウェイトリフティングクラブ会長、農事組合班長、育成会長、コンニャク研究会、利根沼田共済評議員、PTA 部会長、等。</p> <p>u. 性格が温厚で信頼され、地域の人々の面倒をよくみる。リーダーであり、縁の下力持ちでまとめ役。各組織の代表者の手助けをしている。</p> <p>v. 農業が面白い。自由な時間が持て、好きなことができる。自然の中でこせこせせず暮らせ、生きがいがある (勤めだったら無理だろう)。</p> <p>w. 同じ世代の後継者が多いので、楽しく暮らせる。農地が多い農業中心の地域なので農業が活発である。</p> <p>x. 生活が安定してきた35、6歳頃 (=妻も農家生活に慣れた家) で10年くらい。</p> <p>y. 40歳以下の年代層がめっきり減り、次世代の後継者が不足。高学歴・職業意識への住民意識変化が自覚へとながら、農業の良さが失われつつある。</p> <p>z. ウェイトリフティング、ゴルフ、スキー (家族で)、マージャン、ドンドン焼き (3集落で; 本人が復活させた)、生産組合部門キャンペーン。</p>	<p>a. 43歳 (20年; 21年前)</p> <p>b. 農業のみ</p> <p>c. なし</p> <p>d. 年金制度上・実態上移譲済み</p> <p>e. フラワー・アレンジメント、パソコン、土木・電気工事</p> <p>f. 妻、長男、長女、次女、父、母</p> <p>g. 本人、妻、父 (一)</p> <p>h. 花内30a、果樹5a</p> <p>i. 臨時雇のべ300人日</p> <p>j. 700万円</p> <p>k. なし</p> <p>l. 園場整備が進行中のため、水稲作は休止している。</p> <p>m. 主に妻が行っている。母 (身障) はあまりできない。本人・父はあまり協力的でない。</p> <p>n. 2aの自家菜園で、味噌・漬物は自給。</p> <p>o. 下宿している長男を除き、食事は原則として全員でとっている。</p> <p>p. —</p> <p>q. 結婚後すぐに就職。カーネーション栽培全般と雇用管理、簿記記載を受け持つ。農業は作るだけでは面白くないと思う。</p> <p>r. 花内をはじめ、ほとんど本人が経営。機械仕事、土木工事、電気工事など何でも自力で行なう。カーネーション以外の朝市・道邊栽培用の花に取り組んでいる。</p> <p>s. 農会・自治会関係のムラの寄りに出席。</p> <p>t. 自治会理事、土地改良区代表、果樹ポット部会長、農会班長、朝市部会代表。</p> <p>u. 花内栽培で家族から期待されるだけでなく、フルーツフラワー・パーク (神戸市の農業観光施設) で朝市の代表として地域から期待されている。</p> <p>v. 自営であるため、経営の方向を自分で選択できる。隣の隣家と雇われているため、プライバシーが守られる。</p> <p>w. 集落全体が知人同志であり、人情がある。</p> <p>x. 30歳以降。</p> <p>y. 他人に干渉しすぎ。集落を維持するための行事が多すぎる。保守的である。</p> <p>z. 神楽、祭などの集落行事、花のアレンジメント、アマチュア無線 (市内のグループ)。</p>	<p>a. 48歳 (26年; 21年前)</p> <p>b. 農業のみ</p> <p>c. なし (大学)</p> <p>d. 年金制度上・実態上移譲済み</p> <p>e. 旅行 (若い頃は海外も何度か)</p> <p>f. 妻、長男、長女、母、祖母</p> <p>g. 本人、妻、母 (一)</p> <p>h. デラウェア90a、ペリーA45a、巨峰45a、</p> <p>i. —</p> <p>j. 600万円</p> <p>k. なし</p> <p>l. 植林20年。国道沿いで直売所を開いている。</p> <p>m. 家事は妻が主に担当。本人は「インスタント・ラーメンしか作れない」というが、来客には自分でコーヒーをいれる。</p> <p>n. 家庭菜園で野菜は自給。味噌・コンニャク・漬物を自家加工。</p> <p>o. 子供が大きい、テレビを観るときくらい。</p> <p>p. 高齢の祖母がいて苦労はあるだろうに、妻は気にならない様子。多世代同居で子供たちがやさしい子に育つと満足。老人室は安閑近くで日当たりがよく、若夫婦の寝るの隣にある。</p> <p>q. 結婚後すぐに農業に従事。機械仕事以外、全般の作業をこなす。</p> <p>r. 機械仕事、売買交渉。</p> <p>s. 会合に出席。</p> <p>t. 水利組合、交通安全委員、ハウスぶどう部会副会長。</p> <p>u. 地域のリーダーとしての期待を果たす年代になっており、期待が大きくなり、たくましく役員を引き受けるようになっている。</p> <p>v. 自分の時間が自由。身を拘束されない (5月のジャベリン処理時を除いて)。自分が大得意である。</p> <p>w. 緑が多く、空気がきれい。人間関係、近所とのつきあいがある。公害がない。</p> <p>x. 学生時代に県外に出てから。</p> <p>y. とくになし。</p> <p>z. 消費者への直売。ソフトボール。</p>
<p>①米・野菜・リンゴ等自給し、リンゴジュースは健康のため家族全員で飲んでいる。リンゴ作りには新しい情報を取り入れ仲間とともに助けていて、個人としても書道・細字画をたしなむなど人間関係の豊かさを求め続けている。</p> <p>②地域における結婚祭の改善。</p>	<p>①結婚時から休日や労働報酬を実践。雇用者家族も含めた福利厚生、労災への加入、女性の立場を配慮 (子の送迎等) した万全な雇用管理と卓抜した経営者能力。</p> <p>②養豚を営む平等社会・農道・側溝の掃除から送迎など。虫送りや天神湯の復活だけでなく、子供たちが自発的に実行するシステム作り。</p>	<p>①物質面はもちろん、家族全員が楽しみや生きがいを持っており心・文化面でも豊かだ。女性が地域で活動することに賛同できるなど、民主的でもある。</p> <p>②野菜・コンニャクなどの収穫時期は忙しく、時間の余裕がない。</p>	<p>①本家の花内栽培以外に、果樹ポット栽培や裕福販売をしてくれる、フルーツフラワー・パークの朝市で花や野菜を販売しようとするなど、多様な努力をしている。消費者と密接な関係を築き、有利販売につなげたいという意欲を持つ。</p> <p>②長時間労働で、時間の余裕がない。</p>	<p>①消費者との交流が保たれている。消費者に雇われる、おいしいぶどう作りに対して研究熱心である。農閑期にはゆとりのある生活を送っている。</p> <p>②農閑期に休日の導入が必要だろう。</p>
<p>①55戸 (91%)</p> <p>②少し深刻 (かなり深刻)</p> <p>③それなりに何とかなっている。</p> <p>④例はないが、入って暮らせると思う。</p>	<p>①52戸 (56%)</p> <p>②少し深刻 (少し深刻)</p> <p>③それなりに何とかなっている。</p> <p>④例はないが、入って暮らせるのは難しいところだ。</p>	<p>①112戸 (41%)</p> <p>②さきめて深刻 (少し深刻)</p> <p>③仕事・趣味・生きがいを持ち生き生きしている。</p> <p>④入って暮らさずや実際にそういう人がある。</p>	<p>①75戸 (90%)</p> <p>②かなり深刻 (少し深刻)</p> <p>③それなりに何とかなっている。</p> <p>④入って暮らさずや実際にそういう人がある。</p>	<p>①35戸 (86%)</p> <p>②少し深刻 (少し深刻)</p> <p>③仕事・趣味・生きがいを持ち生き生きしている。</p> <p>④例はないが、入って暮らせると思う。</p>
50歳代後半	40歳代前半	40歳代前半	30歳代後半	30歳代前半

表－2 30・40 歳 代 男 性

番号（県市郡；立地）	19（高知県南国市；純農村）	20（福岡県朝倉郡；純農村）	21（群馬県利根郡；山村）	22（島根県那賀郡；山村）
プロフィール	a. 年齢（自家農業従事歴；結婚時期） b. 就業状況 c. 就業以前の職業 d. 経営権 e. 趣味・特技	a. 40歳（15年；13年前） b. 農業のみ c. 酪農組合、農機具販売店に勤務 d. 年金制度上・実態上移譲済み e. カヌー、釣り、キャンプ	a. 38歳（15年；11年前） b. 農業のみ c. なし（農業経営大学校） d. 年金制度上・実態上移譲済み e. スキー、ゴルフ	a. 38歳（20年；13年前） b. 農業＋味噌加工 c. なし d. 年金制度上・実態上移譲済み e. “年分敷まない”と言いつつ酒を飲むこと
家族・農業・生活の実態	f. 家族構成 g. 主要農業従事者（他農業従事者） h. 農業の組織・規模 i. 雇用労働 j. 年間農業所得 k. 林業等の状態 l. 農・林地利用の特徴	f. 妻、長女、次女、長男、父、母 g. 本人（長女、次女） h. 水稲1.2ha、施設野菜50a i. 臨時雇のべ300人日 j. 700万円 k. あり l. ー	f. 妻、長女、次女、長男、父、母 g. 本人、妻、父、母（ー） h. 米15a、大根8.3ha（うち借地7.6ha） i. 臨時雇のべ470日 j. 1,550万円 k. なし l. 標高700～1100mの間で標高差のある農地を果樹し地帯化している。	f. 妻、長女、長男、次女 g. 本人、妻（ー） h. 水稲2.2ha、大豆1.5ha、野菜50a i. 4名の同居人 j. 250万円 k. なし l. 集落内の3戸と特別栽培米グループを作り、低農薬と無農薬の栽培。味噌原料用大豆とスイートコーンを軸に有機無農薬で野菜栽培。
	m. 家事分担 n. 食料調達 o. 団楽・娯楽 p. 親世代との関係 q. 妻と農業	m. 家事は妻が行なう。 n. 米、野菜、果物（柿・桃・梅・栗）を自給。漬物は自家加工。 o. 夕食3～4時間、テーブルを囲んでの雑談や話し合い。子供との遊び。家族旅行。 p. 両親・子供は母屋に部屋、本人夫婦は別棟。食事は、年齢を考慮して調理するのて問題はない。 q. 子供が小学校入学と同時に保母の10年間で理解し、最近では積極的に参加。柿摘み・摘み、桃摘み、収穫、調整、箱詰めに従事。	m. 妻は家事全体・育児・教育、本人は買い物・教育・子供の世話、父・母は自家用野菜栽培、母は庭敷周辺掃除、子供は自然観察。 n. 野菜を自給。 o. 作業タイム（農業上、とくに雇用面）、子供との時間を大切にしている。 p. 常に話し合いの心がけている。本人と父は借地確保について、母と妻は家事運営について。 q. 家計全体と経営広域処理、出荷箱造り、出荷調整、接待等。育児中なので夫の補助程度、家事作業が中心。	m. 洗濯は各自が行なう。食事も掃除は集団内の当番制。 n. 米、卵、野菜（冬期は除く）は自給。味噌・醤油も自分たちで加工。 o. 野菜は一緒に食べる。子供たちに田畑の作業を手伝わせる。 p. ー q. 自家用の野菜と米作り。畑に入ったりいなくなったり…
農業・地域生活での位置	r. 農業経営での役割 s. 農業生活での役割 t. 地域での役割 u. 家族や地域の人々の期待・評価	r. 作業計画立案、機械仕事（防除・除草・耕起等）、果樹野定、収穫、出荷。 s. 集落の会合への出席。 t. 農協園芸部役員、農協役員。 u. 農業経営やゆとりのある暮らし方等、地域の人々の目標的存在である。	r. 作業計画立案、機械仕事（防除・除草・耕起等）、果樹野定、収穫、出荷。 s. 買い物にはときどきつきあう。地域の会合にはほとんど出席。農会の整理整理、おせち料理の一部を作る。PTAに参加。 t. 消防団長、陣部長、小学校地区分会副会長、カヌー・クラブで活躍。 u. さまざまな文化活動に参加し家族と共に楽しめる状況作りをしてはいる。趣味や農業技術を身につけて年々ともにも生き生きとしてほしい。	r. 雇用確保・雇用管理、新地全体の管理、指導・除草・防除・収穫・出荷調整作業の分担。 s. 買い物、子供の送り迎え（保育園等）、一週間に1回だれにも気兼ねない時間を作る。 t. 地区野菜出荷組合長、利根沼田農業機械士連結協議会長、利根沼田青年農業士会長。 u. 各種団体の役員を歴任し地域後継者の相談相手として導かれ、リーダーとして活動が期待されている。自らゆとりのある経営を築くとともに、集落組合を設立し大規模地帯化の基盤を作った。
農業・地域生活についての所感等	v. 自然に恵まれており、空間的にも時間的にも自由がある。 w. 都会から離れていることで、かえって農家らしい生活を楽しむことができる。 x. とくにいつからと感じたことはない。（子供の頃から） y. 感じたことはない。 z. 花見など四季折々の行事を、交流も兼ねて楽しむ（地域の農業壮年夫婦たちと）。	v. 自然に囲まれ自然のなかで暮らせる。食べ物が新鮮。家族が小さい時から土地に親しめて、自然のなかで育つことができる。 w. 地域での連帯感がある。 x. 22、3歳頃から。 y. プライマシーが保たれない。人間関係が複雑。 z. 八幡宮獅子舞笛吹、消費者（生協代表者）と交流、カヌー・クラブ。	v. 家族と共に労働でき話し合いが持てる楽しい家族生活。子供が小さい時から土地に親しめて、自然のなかで育つことができる。 w. 村一帯の活動ができる。新規に来た人もこの村に引き込まれる。若くは遠くから来る。若い人たちが地域のみんなに育てられる。 x. 自分自身がしかりた経営が樹立でき（本気になって経営してきた頃）しか地域に根付いてきた6～7年前頃から。 y. 回り近所が干渉し噂が流れやすく、広まってしまう他人や親しい人のやり方・失敗などが先行し、（人をダメにし）立ち上がれなくなる傾向にある（最近はいくぶん解消されてきたが）。 z. 村づくりグループ（村内有志）、スキー・ゴルフクラブ（村）、野菜研究グループ（県内有志）。	v. 自然環境ばっちり。水は谷川の湧き水で、ただ、仲間と生活や農作業を共同化。子供たちがのびのびと育ち、お金が少ししかからない。 w. 都会・町の消費者と多角的な交流を持つこととしている。昔からの農法にこだわらず、有機無農薬栽培により安全な食べ物を作る人など、こだわり人間が少なくなっている。 x. ふと後を振り返ったときから。 y. 立場や考えの違う相手の存在を、もっと必要にしなければいけないと思う。 z. 農的生活と百姓体験キャンプ（学生・社会人）、子供たちのいなか体験キャンプ、特別栽培米などの消費者交流（広島・大阪の消費者）。
調査担当者の所感	①農家を効率的に行ない時間を生み出すことで、完全に機械的に参加した人、また文化的活動ができる。家族が、農業に対する考え方やポリシーを持っている。家族各々の趣味（家庭菜園、電気製品等修理、パソコン等）が家族生活に潤いを与え農業にも役立っている。 ②とくになし。	①農業独特の忙しさを表面に出さない、精神的な重さを感じさせる。家族も、生活の大切さをそれぞれが知っており、経済の内容を全員が知りそれぞれが支えた生活がなされている。 ②地域において、活動が全員でなされる側には活発でない。	①家族の責任と役割分担があり、特に婦人の位置付けがしっかりしている。労働と休養についての考えがよく、定期休業日をとっている。家族全員が明るく開放的で、学ぶことへの向上心が強い。人間性が尊重される農業生活だ。 ②地域の生活基盤が整っていない（養育への対応）。	①自給物が多く、手作りの生活を楽しまれている。話をしていると元気が出る。自由な生活のなかに、経済的な基盤もきちんとしている。 ②ー
集落の様子	①世帯数（農家率） ②後継者問題（城間問題） ③高齢者の状態 ④非農家の暮らし易さ	①46戸（57%） ②少し深刻（少し深刻） ③趣味や生きがいを持ち生き生きとしている。 ④例はないが、入って暮らそうと思う。	①30戸（83%） ②少し深刻（問題ない） ③仕事に生きがいを持ち生き生きとしている。 ④入って暮らそうと思う人はいない。	①36戸（72%） ②少し深刻（少し深刻） ③それなりに何とかやっている。 ④入って暮らそうと思う人はいない。
〈参考〉調査担当者の年齢	30歳代前半	50歳代後半	40歳代前半	30歳代前半

の 農 村・農 家 生 活 (つづき)

23 (山形県最上郡; 山村)	24 (石川県石川郡; 山村)	25 (高知県南国市; 山村)
a. 48歳 (32年; 26年前) b. 農業と林業 c. なし d. 年金制度上・実態上移譲済み e. 写真、人に会うことが趣味。藍染めの藍立てが特技。	a. 45歳 (24年; 17年前) b. 農業のみ c. なし d. 年金制度上・実態上移譲済み e. 読書	a. 43歳 (16年; 16年前) b. 農業のみ c. 地方公務員 d. 年金制度上・実態上移譲済み e. 文や手紙を書くこと、サッカーなどスポーツ
f. 妻、長男、次女、父、母 g. 本人、妻 (-)	f. 妻、長男、次男、長女、父、母 g. 本人、妻 (-)	f. 妻、父、母 (子供) g. 本人、妻、父、母 (-)
h. 米2ha、山菜1ha、なめこ1500箱 i. — j. 600万円 k. あり l. 農産物・なめこ・たらの芽をセットにしたお歳暮を知人に届け、今では贈答品として注文がくるようになっていた。	h. 酪農成牛30頭・育成牛11頭、水稲2ha i. — j. 800万円 k. なし l. 自家用野菜を充実。	h. 水稲70a、蕎麦70a、ポンカン30a、小ナス6a i. 臨時雇のべ30人日 j. 300万円 k. あり l. 所有地にある松竹梅や櫻権を利用して「門松」を作って販売。
m. 妻が家事全般。炊事の半分を母に助けてもらう。 n. 野菜は自給 (妻・母)、鶏卵・やき乳も自給 (本人・妻)。漬物等も自家加工 (母)。 o. 食事時間と夕食後 p. 同じ食事をとる。 q. 結婚と同時に就農。農作業・経営を夫と一緒にしない、農業がたいへん気に入っている。	m. 長男が農業期に炊事の手伝い。長女が食器洗い。 n. 野菜・米・牛乳は自給。チーズ・漬物類・果実酒は自家加工。 o. 農作業の休憩時、夕食時 (2時間間)。誕生日、クリスマス。 p. 父母が病気がちで、病院の送り迎え。 q. 結婚と同時に就農。本格的には7年前から、飼料管理、搾乳、堆肥処理に従事し、誇りを持っている。	m. 妻は炊事・洗濯・掃除。 n. 味噌、醤油、野菜は自給。 o. 日常生活、生産の場、夫婦で共に文化活動に参加。 p. 悩みはない。 q. 非農家から嫁ぎ結婚と同時に農業従事。仕事は農業全般。農業のしんどさと楽しさの両方を体感中。
r. 経営計画、在庫管理、農作業、機械仕事、簿記記載、作業日誌記載、税金申告。 s. 自給用家畜の飼育、畜産加工 (ハム、ウインナー作り)。 t. 町山菜研究会会長、集落副会長、集落部分林組合長、地区総合振興実行委員会事務局長。 u. 女性の社会参加への理解が深く、山菜研究会のヨーロッパ視察研修なども、女性を主役に行っている (先進的な考えの妻も、ときとしてついていけないほど)。	r. 機械作業のすべて、飼料管理、搾乳、堆肥処理。 s. 買い物につきあう。集落・村・組織の会合に出席する。 t. 育友会常任委員、子供会役員、中核農家副部長。 u. 村や集落、農業関係の役職を担い責任感が強い。リーダー的な存在で、村・農協の役職に期待されている。	r. 全般。 s. 炊事・洗濯・屋内掃除・買い物はあまりしない。 t. 消防団・PTA 以外の活動はすべて (役職はほとんどない) 持たない。 u. 期待も評価もあるが、本人は気付かないか気にしていない。
v. 人間的に生きられる。 w. 自然が豊富。人間関係がおだやか。 x. もの心がつく頃から (意識したのは20歳頃)。 y. はき (活気) が足りない。 z. 耕人会 (町内有志の座談会)、林業関係者の集い、都市との交流研究会 (町)、フェイリアンハウス・リサーチ・農家の民泊について (山菜研究会)。	v. 家族がいつも仕事を通しての会話ができ、互いに理解し合える。新鮮な農畜産物が食べられる。自分の計画で生活でき、人から制約を受けない。 w. 自然に恵まれて、のびのびと生活できる。 x. 生まれ育った環境に適合していたので、いつ頃からは言えない。 y. 昔からのこだわりやブライドの古いところ、古い風習から脱皮できないところ。 z. パーベキュー大会、スキー大会、酪農視察研修会、技術講習会、他産業視察 (すべて酪農家とともに)。	v. “山の百姓は、きれいな環境で気に入ったことを気分良くやれる”。 w. アバウトでファジーでファンタジーであり、それでいてまとまりが良い。3K=「きれいな環境で気に入ったことを気分良くやる」。 x. 前からずっと思っていたが、とくに強く思い始めたのは5年くらい前から。 y. 年配の人に夢がない、考え方が古い (便利さや裕福さが至高と思っているふしがある)。 z. AS なるクラブ (地元元とジャズ・コンサート、講演会、夏祭り開催)、サッカー (県リーグ、海外遠征)、雑誌出版 (『百姓天国』に参加)。
①地域の特性を十分に理解し、自給 (衣食住・文化) を旨とし、地域に合った生活を楽しんでいる。活動の範囲を限定せず、得たい情報があるときはどこまでも足を運び、交友関係は全国に広がっている。 ②生活の基盤として、公的施設が少し遠い。	①経営主・妻ともに役職を持ち多忙であるが、お互いにやりくりしながら必ず出席し知識を詰めようとしている。家庭菜園を充実し、食生活の工夫をしている。計画的に自分の時間を作っている。 ②近くに公共施設がない。高校へ通うのに時間がかかる。	①生活は少々不便で収入は少なくても、すすんで山に住む積極的に生活することで山村に活性を与えている。粗放な集約、複合経営と消費者直接販売に努め、こだわりをもった消費者と知り合うチャンスを作り出している。しなやかにたくましく「ほどほどに賢く悠然と」をポリシーにしている。 ②なし
①15戸 (80%) ②問題ない [少し深刻] ③それなりに何とかやっている。 ④例はないが、入って暮らせると思う。	①19戸 (95%) ②少し深刻 [問題ない] ③それなりに何とかやっている。 ④外部の人が入って暮らすのは難しいところだ。	①93戸 (26%) ②少し深刻 [少し深刻] ③それなりに何とかやっている。 ④例はないが、入って暮らせると思う。
40歳代前半	40歳代後半	30歳代前半

(注)

- * 調査担当者によって調査票に記入された原文を、記述スペースが許すかぎり、尊重している。
- * ここに記された事例の調査担当者 (生活関係改良普及員) は、すべて女性である。
- * 「f. 家族構成」については、記述スペースの都合上、本人を除外している。
- * 「買い物につきあう」という表現が多く見受けられるが、筆者が調査票に例示した表現に影響されたとも考えられる。

ろっての作業で共通の話題や目標をもてる」が多く、「子供と過ごせ、子供がのびのび育つ」「自分の意思で経営できる」「時間を自由に調整できる」「居住スペースが広い」などが続く。概して、30歳代後半から40歳代前半にかけては「家族そろっての作業で共通の話題や目標をもてる」と「子供と過ごせ、子供がのびのびと育つ」を合わせた“家族員間のコミュニケーション”が高く評価される。40歳代後半では、「自分の意思で経営できる」ことがほぼ一様に指摘される。また、純農村では「自然が良く静か」が、山村と都市近郊では“家族員間のコミュニケーション”が指摘される。

- w. 都市生活に比べてわが村のいいところ
「住民間の助け合いやまとまりがある」ことが、年齢を問わず指摘されている。これは、純農村で高く都市近郊でやや低い。また、「自然環境が良い」ことも評価されており、その度合いは山村で高い。なお、回答において「わが家」(v)と「わが村」が截然と区分されてないようであるが、このあたりは農村・農家生活の特質かもしれない。
- x. 「いいところ」と思えるようになった時期
「いつ頃からとは言えない(しいていえば幼少の頃から)」「青年時代(中学生～大学生)に他地域を知ってから」「就農の時点で(いいと思ったから就農した)」「結婚や子供の誕生の頃から」「(30歳頃以後に)経営がしっかりした頃から」といった諸タイプがある。
- y. わが村に欠けているところ 農村の古さと窮屈さ(「協調を前面に出しすぎる」「考えや風習が古い」「うわさ話や干渉が多い」「女性の発言権がない」「立場や考えが異なる人がいることの意義を認めない」「人間関係が煩わしい」など)を指摘する者が多い。このことを強く感じるのは40歳代前半の人々であり、都市近郊よりも純農村に、純農村よりも山村に多い。逆に、40歳代前半ならびに都市近郊では、混住化、作目畜種の多様化、高学歴化とともに個人主義化が進むのを嘆く人々もいる。そのほかに、活力のなさ(「新しい情報や文化が届かない」「活気がない」「若い人がいない」)や乱開発への不満も指摘されている。
- z. 行なっている文化的な活動 平均的には3

種類程度が挙げられている。最も多いのはスポーツで、45歳ぐらいまで、都市近郊で一般的である。その他の趣味活動(音楽、写真など)も、40歳代前半に、都市近郊に多い。これらとともに目立つのが消費者との交流や地域作りの活動であり、純農村よりも都市近郊や山村で活発なようである。そして、以上のような広い意味での文化的活動の多くが、仲間や地域という拡がりで、しばしば全県・全国で、さらには国際の拡がりでも展開されているのは注目されてよい。

3. 農業観醸成についての示唆

(1) 農業と農村・農家生活へのかかわり

農村男性の様子を紹介することとともに、本稿のもう一つの主題は、農村男性の農業観を推察することである。つまり、農村女性の農業観醸成過程に比べて、農村男性の状況にどのような特徴がありそのことが農業観の内容にどう反映するかを見当づけることである。そのために、被調査男性の農業や農村・農家生活へのかかわり方を大雑把ながらも整理しておこう。また、農業観が順調に展開するための鍵とみなされたことがらを思い起しておこう。

まず前者についてであるが、前節の諸事例は、自然・地理・社会・経済にわたる諸条件と各人の努力の方向をそれぞれ異にする。そうした多様性を了解しつつも、ここでは諸事例のあいだの共通性に関心を向ける。この共通性は前節-(3)のコメント(a～z)を総合することによってとらえられるが、詳述を避け、いくつかの事項を摘出しておこう。

〔家族・農業・農村への入り方〕 生れ育った家と村、幼少時から身近な農業である。三世代・数人の家族員のあいだで自生的ないし慣習的な協同と分業が展開され、相互のコミュニケーションに意が払われる。そうしたなかにごく自然に居る。

〈 \longleftrightarrow 多くの場合に新しい家、新しい村、ときとして新しい職業である。その意味で、はじめからごく自然に馴染込めているわけではない⁴⁾。〉

〔農業という仕事の内容〕 経営の全体計画、市場対応、機械作業、借地関係の維持管理などを担う。もちろん手作業も行なうが、それが大部分ではない。〈 \longleftrightarrow 精神的複雑労働の要素を含む手作業が中心である。〉

〔家事と農業〕 家事らしい家事には深くかわからない。〈←家事と農業とでたいへんである。〉

〔趣味・文化的活動〕 早い時期から多彩に活動する。〈←40歳頃から本格化する。〉

〔地域での社会的な活動〕 さまざまな領域で活躍し役職も引き受ける。地域が気に入っているのだが、頑張って活動しようとすれば保守性や個人主義化にいらだちを覚えることもある。〈←若いうちはあまり活動できない。40歳を過ぎても、農業や生活の方向づけに係わる会合にはなかなか出られない。〉

〔農業が好きになる時期〕 農村や農家が「よいところ」と思われはじめる時期は幼少時、青年時、就農時、結婚・子供誕生時、経営確立時などと多様であるが、これは「農業が好きになる」時期や意味について何かを示唆しているのではないか（その意味を明らかにするのが課題であり、本稿はそのための一ステップである。）。〈←30歳代では、子供・家族・地域の人々との共感。育児が終了しサイフを譲り受け農作業に熟練する40歳頃には、自分の判断を経営に生かせる喜び。50歳代以後には、自然のなかに生き－生かされる喜び。― 好きの意味合いが重畳的に成熟する。〉

（2）農業観展開の傾向

他方、農村女性を対象に、農業・農村生活主体に次のことが許され備わるとき生き生きとした美観（感）や快観（感）が展開することを、仮説として提示した⁵⁾。

- ①等身大の技術のもとで作業行為が持続される。
- ②主知的な構えが譲歩される。
- ③生活（家事等）と生産（農業等）が両立される。
- ④自身の行為を展望できる。

これらを（1）での傾向と照らし合わせると、農村男性の農業観がどのようなものであるか（どのようなものでないか）が見当づけられる。

〔①について〕 機械作業が主であるとき、純粹持続の境地に至りにくく、作業行為の環境と心身のあいだの緊張が失われる。〈道具を同化した心身〉対〈環境世界〉の対峙が緩み、心身は機械と対峙するのみで環境世界は機械の背後に隠れてしまうのである⁶⁾。また、市場対応では記号（ブランドや価格）に浸り切るのであるが、そのなかでも環境世界と心身との対峙は薄らぐ。要するに、機械や記号という等身大ならぬ技術ないし技術体系によって、心身と外界との緊張に富む接触が阻

まれるのである。

〔②について〕 経営管理の射程に入ることがらは、科学性や経済性で割り切られざるをえない。あるいは、農地や労働力の所有関係の維持管理は否が応でも自我の自覚をきわだたせる。そうした限りで、直観がはたらく余地は小さくなる。

〔③について〕 小技術に支えられる日常諸行為の連鎖のうちには、家事領域の行為と農業領域の行為が交互する。そのなかで両分野で醸成される美観（感）や快観（感）が融け合い、農業や農村・農家という場を支え導く感覚の下地が作られる。だが、家事への継続的参加がないかぎり、また農業領域の行為が必ずしも小技術に多くを依存しないかぎり、この意味での共通感覚の生成はあまり期待できない。もちろん、趣味や社会的な活動が継続されるなかで、農業領域とこれらの活動領域のあいだでの共通感覚が生成するということも考えられないではないが。

〔④について〕 望ましいことや解決したいことをほぼ自由に模索したり表明できており、消費者、趣味の仲間、あるいは地域の人々との関係が活発に構築されている。投企とも呼べる行為が可能になっているのである。ただし、同一の暮らしと仕事の場に居続けることによってビジョンや問題の知覚野が狭まっていることが予想されるし、旧態にこだわる人々に模索や表明を妨げられることもままある⁷⁾。

以上のように対比してみると、農村女性における農業・農村生活への感慨と農村男性におけるそれとは、必ずしも同質でなさそうである。新しい地域・家庭・職業に漸次慣れてゆき手作業中心の仕事に携わる女性の場合には、農業観醸成過程がいわば純粋なかたちでとらえられた。これに対して、男性の場合にはより複雑であり、農村・農家の良さがつとに幼少時に感じられたという指摘さえあるように、より長く広い観察視野が求められる。また、農村女性の農業観については心身の純粹持続態に着目することによって多くが説明できたが、男性の場合にはこれに着目するだけでは不十分なようである。― 考察方法を通しての言い回しだが、少なくともこのような違いが予想されるのであり、その具体的な様相について調べるのは今後の課題である⁸⁾。

[注]

- 1) 拙稿『農業者の価値観の醸成に関する基礎的考察』(1993年)。
- 2) 農村生活総合研究センターにおける「農村生活新指標の研究」において、祖田修氏とともに「壮年男性についての生活指標」を担当した。
- 3) 「30・40歳代男性の農業と農村生活」と題するゆえんである。
- 4) 〈 〉内の記述は、長野県内の農村女性に見られた傾向である(前掲1))。
- 5) 前掲1)を参照のこと。
- 6) 河上正秀『行為と意味』(未知谷、1993年)。
- 7) 「農村・農家での発言力や地位」などの農村

女性において深刻だった問題が農村男性の関心対象にならないことなどは、問題知覚野の狭窄化を示唆する。

- 8) ここに言う“男性”と“女性”は、商品生産や機械・装置体系、家庭・地域の社会慣行などにどのように参画し包摂されているか、—— そういう状況をも反映する男性と女性である。

[追記] 「農村生活新指標の研究—壮年男性の生活指標—」でご指導とご助力をくださった祖田修氏(京都大学)と安倍澄子氏(農村生活総合研究センター)、ならびに調査を担当して下さった26県の農村生活関係改良普及員の諸氏に対して、厚くお礼を申し上げる。